

平成28年度学校評価計画に対する最終評価報告書（平成29年3月）

石川県立金沢向陽高等学校

重点目標	具体的取組	実施状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
1 基本的な生活習慣の確立 遅刻欠席者を減らすとともに、挨拶を励行させ、規範意識を高め、基本的な生活習慣の確立を図る。	① 遅刻の防止 全職員による登校指導や頻回者への意識改革指導を通して、基本的な生活習慣を確立する。	遅刻者が1日に A 4人以下 B 5人～7人 C 8人～10人 D 11人以上	B 4.29人 1年 1.46 2年 1.78 3年 0.85	基本的な生活習慣の確立のため、遅刻の防止を最優先に取り組んできた。1日平均の数がH26年度は5.2人、H27年度は4.47人、今年度は4.29人と年々減少している。これは全教職員あげて取り組んだ成果といえる。今後もこの数字が年々減少するように粘り強く取り組んでいきたい。
	② 欠席の防止 きめ細かな指導や保護者との連携等により、欠席を減らし、学習意欲の向上を図る。	欠席者が1日に A 12人 未満 B 12人～20人 C 21人～30人 D 31人以上	B 18.25人 1年 5.87 2年 6.83 3年 5.55	昨年度の1日の欠席者が18.86人であったのでやや減である。2年生は不登校傾向の生徒が目立つが、昨年度、1年生のときは9.48人であったので約3人の減である。これからも学年、相談室、保健室の連携を密にし、きめ細かで粘り強い支援により欠席人数を減らしていきたい。
	③ 決められたルール（校則等）をしっかりと守る。	私は、校則等のルールを守っている A よくあてはまる B ほぼあてはまる C あまりあてはまらない D あてはまらない	(A+B) 86% 1年 82% 2年 84% 3年 92%	保護者の学校評価アンケートでは77%と高い水準であるが、教員の学校評価アンケートでは61%と低く、生徒、保護者、教員の評価にばらつきがある。それぞれの評価が高い水準で一致することを目指し、保護者の理解と協力を得ながら生徒の規範意識を育てていく指導を全教職員で続けていきたい。
	④ 悩みや課題を持つ生徒（保護者）に対してきめ細かな対応と支援を行う。	教師は、悩みや課題に対し適切に A 相談に応じてくれた B まあまあ応じてくれた C あまり応じてくれなかった D 全く応じてくれなかった	(A+B) 72% 1年 71% 2年 68% 3年 79%	昨年度も75%であり数字は変わらない。複雑な事情を抱えた生徒も多く在籍しているので、今後も生徒の声には耳を傾け、相談室、保健室と連携しながら安心して何でも相談できるような環境を準備していきたい。
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻・欠席者は年々減少しているのはいい傾向である。 ・ルールを守ることに関しては、生徒・保護者が甘いのか、教員が厳しいのか検討してほしい。 			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針	<ul style="list-style-type: none"> ・二人担任制は本校の強みであるので、今後ともこれを継続して行き生徒一人ひとりにきめ細かい指導を実践していきたい。また、保護者との連絡を密にし、問題にはスクールカウンセラーや外部機関のアドバイスを活かし、即効性を持って対応していきたい。 			

重点目標	具体的取組	実施状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
2 授業改善と3年間を見通した進路指導 学習意欲と基礎学力向上のための取組をさらに充実させ、3年間を見通した進路指導と粘り強い個別指導を実践して、生徒の進路実現を図る。	① 復習や予習を促す 授業改善や選択7限目授業の実施によって家庭学習の習慣化を図る。	授業以外の学習時間が「90分以上」の生徒が A 80%以上 B 70%～79% C 60%～69% D 60%未満	B 67.7% 1年 70% 2年 69% 3年 64%	成績不良者の学習時間確保を目的とした放課後学習会を実施したこともあり、定期試験前に行っている学習時間調査の結果が、昨年度の42.0%に比べ大幅に改善した。一方、30分未満の生徒が多いことは今後の大きな課題である。担任だけでなく部活動顧問からも家庭学習の習慣化のため、日々の声かけをしていきたい。
	② 公開授業や相互参観授業を活用し、わかりやすい授業のための改善に取り組む。	研究授業や教員相互の参観授業に参加した回数が A 3回以上の割合が 80%以上 B 2回以上の割合が 80%以上 C 1回以上の割合が 80%以上 D 1回以上の割合が 80%未満	C A 60.7% B 78.6% C 89.3% 平均2.30回	何回も授業参観し授業改善に活かしている教員もいるが、評価は昨年と同様であり、各教員の意識改善が必要である。また、相互参観の活用はもちろん、今年度から利用可能となったタブレット端末を用いた授業研究を組織的に行うなど、授業改善に向けた研修も充実させ、生徒がより興味を持てる授業を実践していきたい。
	③ 授業評価票などにより、一層の授業改善を図る。	授業を理解できるとする生徒が A 80%以上 B 70%～79% C 60%～69% D 60%未満	C 61.0% 1年 50% 2年 65% 3年 68%	昨年度は同じアンケートで79.5%の生徒が授業を理解できるとしたが、今年度は61.0%と激減した。項目2①では家庭学習時間が伸びているのにこの結果は重く受け止めなければならない。再度、ICT活用授業やアクティブラーニング等、生徒が興味関心を抱く授業実践を研究していきたい。
	④ 総合的な学習の時間やホームルーム活動、学校行事、日々の授業を通して、キャリア教育を推進する。	キャリア教育に関係する行事についてのアンケートで、肯定的な結果が A 80%以上 B 70%～79% C 60%～69% D 60%未満	A 84%	2年生、7月のインターンシップでは、9割の生徒が時間・挨拶・言葉遣いについてしっかりできたとアンケートで答えており、事業所側からの高評価を受けたが、意欲の面で良と回答してくれた事業所が4割に留まった。来年度は講演会等を通して何事にも積極的に取り組む姿勢を育てていきたい。
学校関係者評価委員会の評価	・生徒の基礎学力は重要であるので、先生方の粘り強いご指導が大事であり、ある程度は実践できていると思われる。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針	・授業においてICTの効果的な活用、アクティブラーニングの実践などを通して、生徒が興味関心を持てる授業実践が必要と思われる。そのためにも様々な校内外の研修会を通して教員のスキルアップが重要となってくる。			

重点目標	具体的取組	実施状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
3 部活動の充実 全員加入による部活動の一層の活性化を目指し、体力と情操の向上、学業継続への意欲喚起を図る。	① 新入生全員が部活動に加入するよう指導し、かつ継続的なものにするため、中途退部者に対しても、面談等を通して他の部活動への再入部を強く勧めていく。	部活動の加入率が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	D 63% 1年 71% 2年 53% 3年 64%	昨年度64.4%であり、今年度も微減した。1年次はなんとか部活動に留まっているが、今年度は2年次において退部者が多数出てしまった。本校での部活動は学校活性化のため特に重要と考えられるので、1年次の数字を維持しつつ再入部も含めた働きかけを考えたい。
	② 全員が部活動に主体的・積極的に取り組むように、壮行式等を利用して常に情報発信を繰り返す行う。	部活動について A 休まずに参加している B ほぼ休まずに参加している C ときどき参加している D 殆ど参加していない	(A+B) 59% 1年 55% 2年 63% 3年 75%	昨年度64%であり、5%減少した。3年生は最後の部活動なので積極的であったが、1、2年生の活動が活発でなかった。女子バドミントン部は国体団体2位、世界ジュニア個人3位という輝かしい成績であった。これを機に、近年女子の文化部加入率も高まってきていることから、今後も部活動に関する情報発信を繰り返し行っていきたい。
	③ 積極的に部活動の指導に携わり、学校の活性化に寄与していく。さらに、部活動の指導力向上にも務める。	部活動の指導について A 活動日は必ず1回は顔を出し、活動内容等を指示する B 活動を見に行けないときは必ず活動内容等を指示する C あまり活動を見に行っていない D 殆ど見に行っていない	(A+B) 65%	年々多忙になり、平日放課後の教員の時間確保が大変である。部活動の指導に時間をかけすぎると勤務超過になってしまう。教員の中には部活動を兼任している者もいるが、正副顧問で指導方法、時間等を相談しながら時間確保を考えたい。
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動加入率の低下が気になる。女子バドミントン部が国体団体2位、世界ジュニア個人3位となっているのは大変すばらしいことだ。 ・先生方の指導も大変と思うが、学校活性化のためには部活動の力が必要不可欠と思われるのでがんばってほしい。 			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針	<ul style="list-style-type: none"> ・年々多忙になってくるが、平日放課後だけではなく土日でも部活動指導に時間を割かなければならないのが現実であり、その弊害として教員の勤務時間超過が考えられる。週1回休養日を設けるなど、正副顧問で指導方法等を検討していかなければならない。 ・部活動の顧問は生徒にとって第2の担任でもあるので技術指導だけでなく、生活指導や規範意識の向上などを含めて日々の声かけをしていかなければならない。 ・部活動を継続できる生徒は、進学や就職面でも粘り強く取り組むので、再度教職員あげて部活動指導を盛り上げたい。 			

重点目標	具体的取組	実施状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
4 地域交流の促進による学校の活性化 生徒のボランティアや学校開放及び情報発信などにより地域交流を促進し、地域や保護者に信頼され評価される学校づくりを行う。	① ホームページの更新を分掌ごとに行うとともに、広報誌等による情報発信も行う。	ホームページを定期的に閲覧する A 60%以上 B 50～59% C 40～49% D 40%未満	D 16.1% 生徒 16% 保護者 20% 3年 64%	昨年度、本校ホームページを見る生徒は20%、保護者24%と低い数値であったが、今年度はその数値を更に下回る結果となってしまった。今後、学校行事や部活動の活躍について写真を増やしレイアウト等を魅力的なものに改善していきたい。
	② 福祉施設訪問やボランティア活動の実施などを通して、地域との交流に積極的に取り組んでいく。	ボランティアなど地域との交流に関する事業に A 積極的に参加している B 充分とはいえないが、おおむね参加している C あまり参加していない D 全く参加していない	(A+B) 86% 1年 82% 2年 84% 3年 91%	昨年度54%、今年度86%でかなり増加した。例年通り生徒会メンバーや吹奏楽部・JRC部は年間数回にわたる活動を行って、地域住民からも評価を得ている。また、全校挙げて森本駅から本校まで清掃を行うことにより生徒にボランティア精神が育まれたと思う。今後も継続的なものにしていきたい。
	③ 文化祭などの学校行事や学校開放の情報が地域住民に行き渡るようにする。	地域住民が学校の行事等に参加しやすくなるための体制が A 十分に整っている B おおむね整っている C あまり整っているとはいえない D 全く整っていない	(A+B) 54%	昨年度78%であり、かなり減少した。文化祭では例年の献血事業も行ったが保護者や地域住民の参加は減少した。また、教育ウィークでも参加者は少なかった。原因は不明であるが、今後の情報提供について、ホームページだけでなく地区公民館等の協力を得て発信していきたい。
	④ 図書館を開放し学校と地域住民の交流を促進する。	地域住民が図書館の行事に参加する数が A 50人以上 B 30人～49人 C 20人～29人 D 19人以下	A 71人	昨年度同時期53人から18人増加した。図書館行事も地域にしっかりと定着してきた。さらに、地域に根ざした図書館行事を目指し学校をアピールしていきたい。
	⑤ 指導に関する情報交換や学校行事への参加等を通じて、保護者との連携を深め、保護者の学校への信頼を高める。	学校の指導に対する保護者の満足度が A 85%以上 B 75%～84% C 65%～74% D 65%未満	B 80% 1年 80% 2年 82% 3年 78%	昨年度76%であり、4%増加した。今後もメール配信システムを活用し、学校での様々な行事予定や情報提供をこまめに実施していきたい。
学校関係者評価委員会の評価	・森本駅までの全員清掃などのボランティア活動を今後も続けていき地域に貢献できる人材の育成をめざしてほしい。 ・ホームページの充実が必要と思われる。保護者だけでなく中学生にも興味を湧くようなものにしてほしい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針	・ボランティア活動を通して地域社会と関係を深める中で、意見交換・情報交換を密に行い、地域社会に貢献できる人材の育成に取り組んでいく。 ・ホームページ、メール配信等を利用して、いろいろな情報をこまめに提供し、保護者との情報共有に力を入れていきたい。			